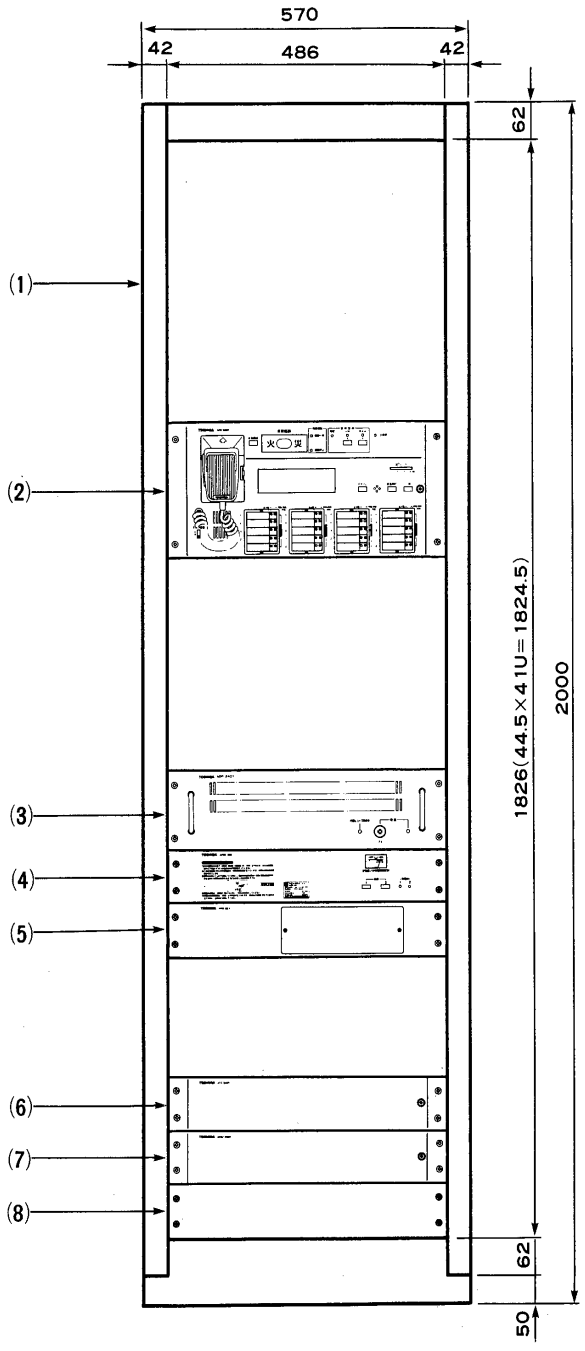
# TOSHIBA 東芝ロッカー形非常放送アンプ取扱説明書

| 対象機種 | ALF-1504Rシリーズ ALF-1524R…ミニロッカー・非常業務20回線<br>ALF-2004Rシリーズ ALF-2024R…ロングロッカー・非常業務20回線 |
|---|---|

このたびは東芝ロッカー形非常放送アンプをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
お求めのロッカー形非常放送アンプを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになったあとは必ず保存してください。

## 各部のなまえ




(1) ラック
(2) 非常操作パネル　APE-520RA
　(非常・業務兼用)
(3) 電力増幅器　ADPシリーズ（別売）
(4) 非常電源パネル　APDE-200（別売）
(5) 制御電源パネル　APD-201
(6) 増設出力端子盤　ATBZ-220R
(7) 基本制御端子盤　ATC-200R
(8) ブランクパネル　APB-200

本外観図はロングロッカー形非常放送アンプ20回線（ALF-2024R）に電力増幅器、
非常電源パネルを組み込んだ図です。

**工事店様へ** 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

# 各パネルの各部のなまえとはたらき

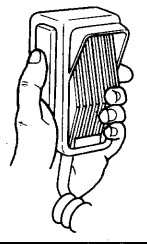
## 非常操作パネル(非常・業務兼用)(APE-520RA)

**①非常起動スイッチ**
- 手動で非常放送するときおよび火災放送するときに押します。

**②火災灯**
- 自火報(自動火災報知設備)または非常起動スイッチからの起動により点灯または点滅します。
- 感知器起動時および手動起動時の火災放送移行への第1タイマー動作中は点滅します。

**③非常復旧スイッチ**
- 非常放送終了時に押します。
- 非常放送が復旧します。

**④非常・業務兼用マイクロホン**
- トークスイッチを押しながら放送します。



**⑤マイク扉**
- 開けると内部に連動切換、点検、書き込み等のスイッチがあります。

**⑥モニタスピーカ**
- 放送内容をモニタできます。
- 非常放送時は操作ガイドの音声がでます。

**⑦モニタ音量調節器**
- モニタスピーカの音量を調節できます。大、中、小の3段階に調節できます。
- 非常・業務兼用マイクロホンを使用時にはハウリング防止のため、トークスイッチを押すと自動的にモニタ音量は低下します。

**⑧連動一斉表示灯**
- 自火報との連動を連動一斉に設定したときに点灯します。
- 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。

**⑨連動停止注意灯**
- 自火報との連動を停止に設定したときに点灯します。
- 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。

発報連動
○ 連動一斉
○ 連動停止

音声警報
発報 ○　火災 ○　非火災 ○

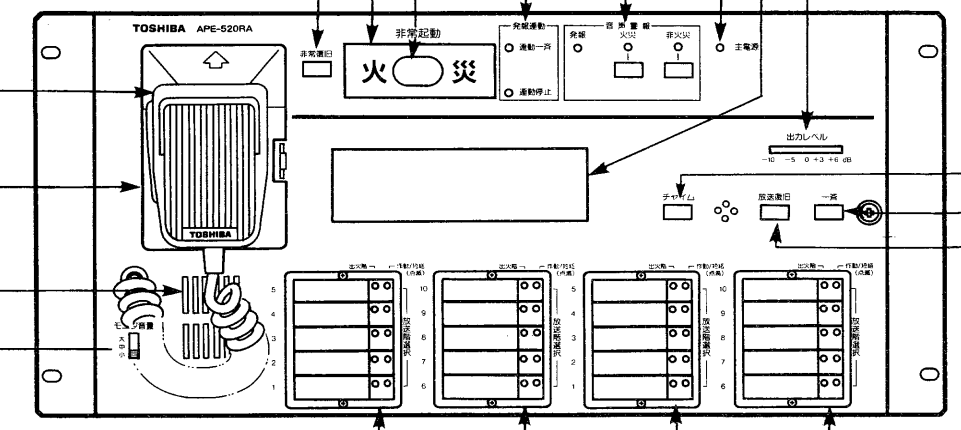
**⑩発報放送表示灯**
- 発報放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。
(点灯中が放送)

**⑪火災放送表示灯**
- 火災放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。
(点灯中が放送)

**⑫火災放送スイッチ**
- 火災放送する時に押します。

**⑬非火災放送表示灯**
- 非火災放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。
(点灯中が放送)

**⑭非火災放送スイッチ**
- 非火災放送する時に押します。




**⑮主電源表示灯**
- 電源が供給されている時点灯します。

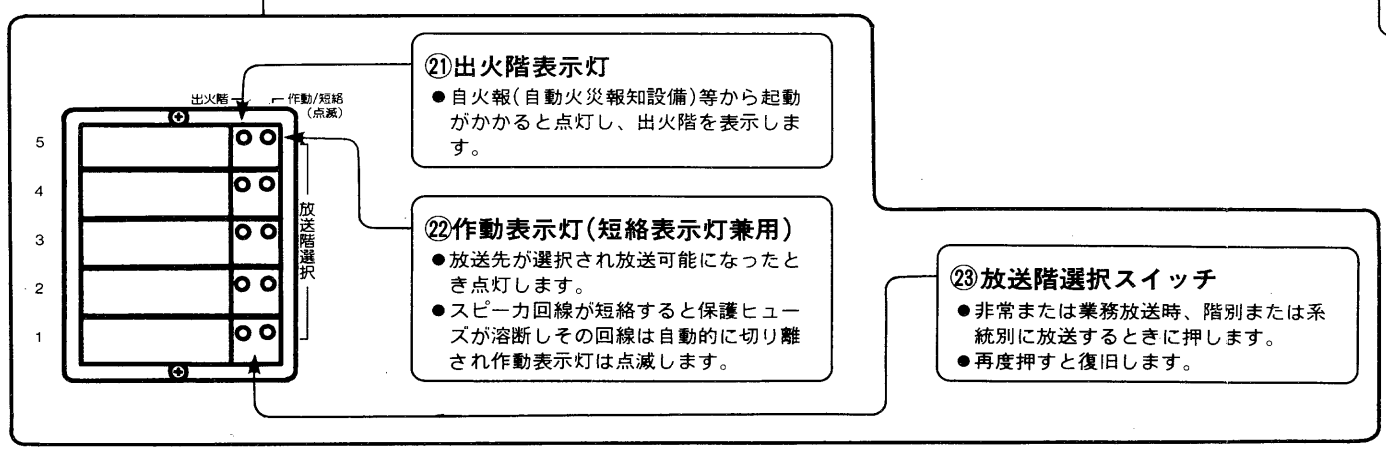
**⑯液晶パネル**
- 次の内容について、必要に応じて、表示します。
  - 書き込み設定の操作ガイド
  - 非常放送時の操作ガイド
  - 業務放送時の動作表示
  - 異常時の内容表示
  - 点検時の内容表示

**⑰放送出力レベル計**
- 放送される音の出力レベルを表示し音の大小に応じて点灯します。
- 音が大きすぎると赤色が点灯します。緑色が点灯する範囲でご使用ください。

**⑱チャイムスイッチ**
- 放送前の予告音としてチャイム音を放送する時に押します。
- 4音の電子チャイム音が、1回放送されます。

**⑲一斉放送スイッチ**
- 非常および業務放送時、全回線一斉に放送するときに押します。
- 再度押すと復旧します。
- ただし、非常放送の場合で第2タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。

**⑳放送復旧スイッチ**
- 放送終了時に押します。
- 選択されていた回線が解除され復旧します。
- ただし、非常放送の場合で第2タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。




**㉑出火階表示灯**
- 自火報(自動火災報知設備)等から起動がかかると点灯し、出火階を表示します。

**㉒作動表示灯(短絡表示灯兼用)**
- 放送先が選択され放送可能になったとき点灯します。
- スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断しその回線は自動的に切り離され作動表示灯は点滅します。

**㉓放送階選択スイッチ**
- 非常または業務放送時、階別または系統別に放送するときに押します。
- 再度押すと復旧します。

## マイク扉内

### ㉙発報連動停止スイッチ
- 感知器からの起動時の連動条件を設定します。
- 囲スイッチを押しながら押しますと順次モードが下表のとおり変わり、表示灯が点灯、消灯します。

| モード | ⑧連動一斉表示灯 | ⑨連動停止表示灯 |
|---|---|---|
| 連　動 | 消　灯 | 消　灯 |
| 連動一斉 | 点　灯 | 消　灯 |
| 連動停止 | 消　灯 | 点　灯 |

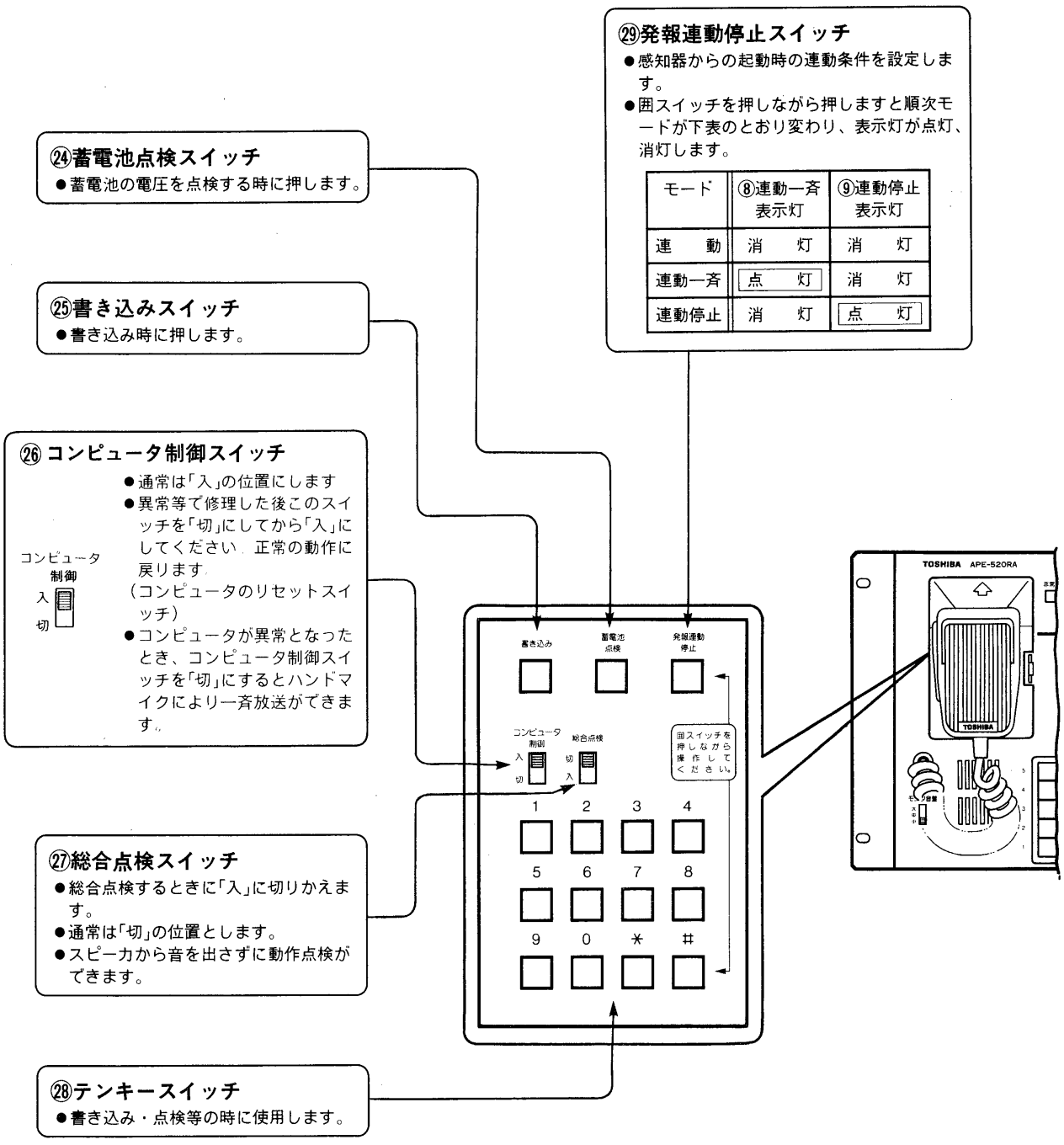
### ㉔蓄電池点検スイッチ
- 蓄電池の電圧を点検する時に押します。

### ㉕書き込みスイッチ
- 書き込み時に押します。

### ㉖コンピュータ制御スイッチ
コンピュータ制御 入 切
- 通常は「入」の位置にします
- 異常等で修理した後このスイッチを「切」にしてから「入」にしてください。正常の動作に戻ります。（コンピュータのリセットスイッチ）
- コンピュータが異常となったとき、コンピュータ制御スイッチを「切」にするとハンドマイクにより一斉放送ができます。

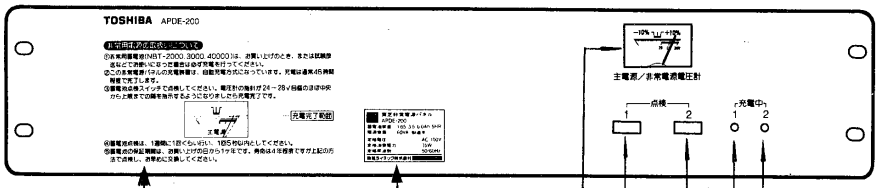
### ㉗総合点検スイッチ
- 総合点検するときに「入」に切りかえます。
- 通常は「切」の位置とします。
- スピーカから音を出さずに動作点検ができます。

### ㉘テンキースイッチ
- 書き込み・点検等の時に使用します。



## 非常電源パネル（APDE-200）

（詳しくは非常電源パネルに付属の取扱説明書をご覧ください。）




㉚操作説明部

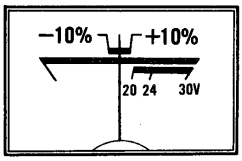
㉛定格表示部

**㉞充電中表示灯**

- 常用電源(AC100V)を受電中、内蔵の蓄電池を充電している時に点灯します。

**㉜主電源/非常電源電圧計**

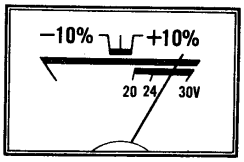
- 常用電源(AC100V)受電中は、常用電源の電圧を表示します。
- 停電時には内蔵蓄電池を使った放送(非常放送)の間供給されている蓄電池の電圧を表示します。




- 蓄電池点検スイッチを押したときは蓄電池の点検電圧を表示します。

**㉝蓄電池点検スイッチ**

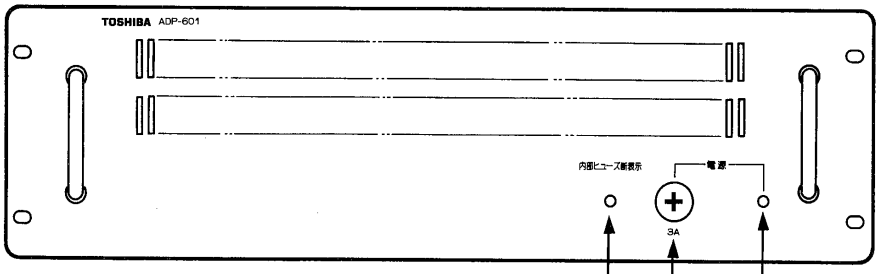
- このスイッチを押して内蔵の蓄電池の点検をします。
- このスイッチを押したとき非常電源電圧計㉝の指針が**24～30V**線の目盛の間に振れれば十分です。この範囲に振れないときは新しい蓄電池への交換が必要です。




## 電力増幅器

（詳しくは電力増幅器に付属の取扱説明書をご覧ください。）

（下図は60W電力増幅器ADP-601の例です。）




**㊲内部ヒューズ断表示灯**

- 回路保護用ヒューズが内蔵されています。
- そのヒューズが溶断するとこの表示灯が点灯します。

**㊱電源表示灯**

- 電源が入っているときに点灯します。

**㉟電源ヒューズ**

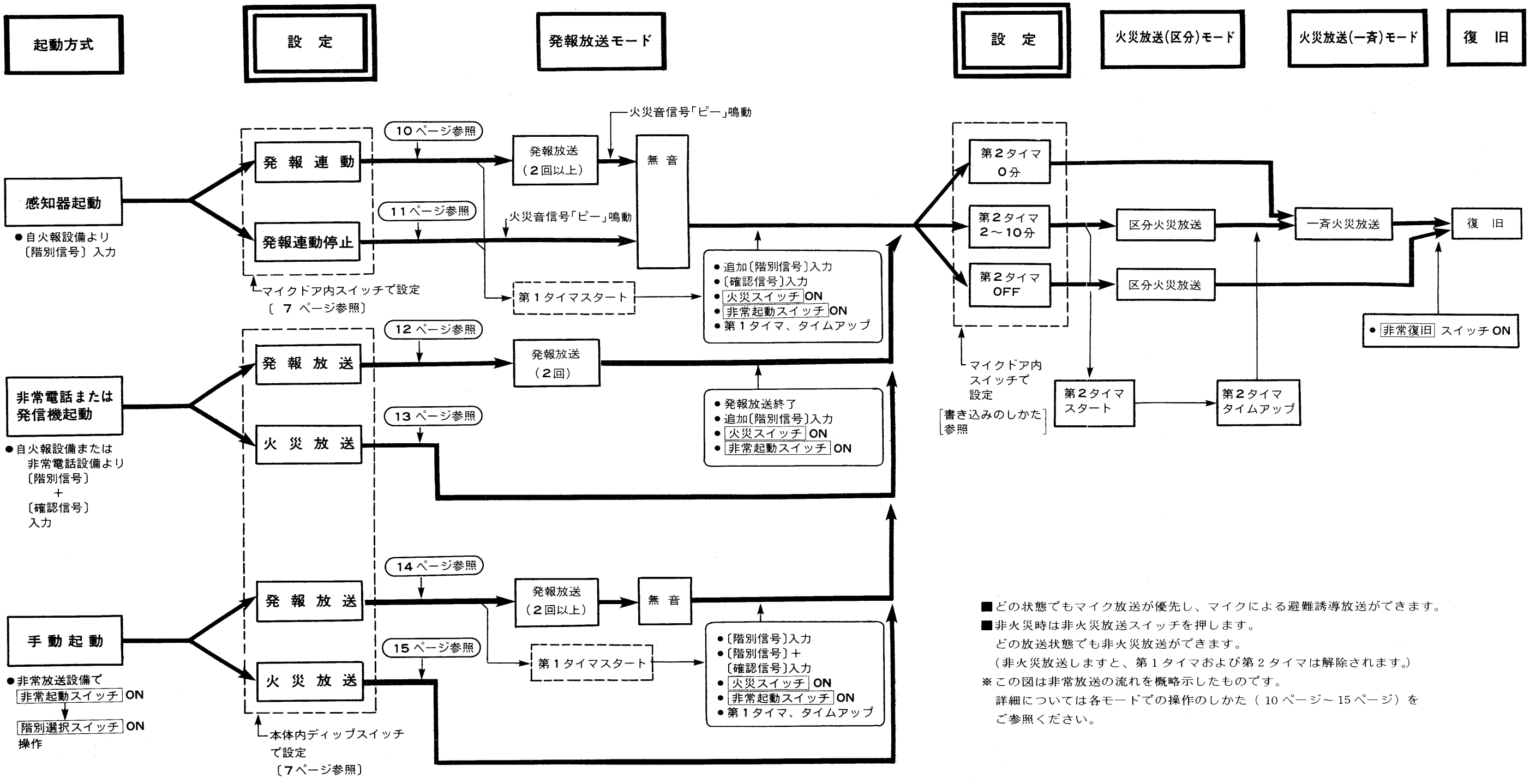
- 電源保護のためのヒューズです。
- このヒューズが溶断すると、電源が入っても電源表示灯㊱が点灯しません。

**ご注意**

- ハウリングをおこしたリスピーカ回線を短絡させたりすると電源ヒューズ㉟や内部ヒューズが保護のため溶断します。
- これら以外でヒューズが溶断した場合はお近くの販売店か東芝お客様ご相談センターにご相談ください。

# 非常放送のしかた

■非常放送設備は火災発生時に音声合成による音声警報（シグナル音＋メッセージ）を自動的に送出します。
■起動方式および設定により動作（操作方法）が異なります。（下図をご参照ください。）
あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。



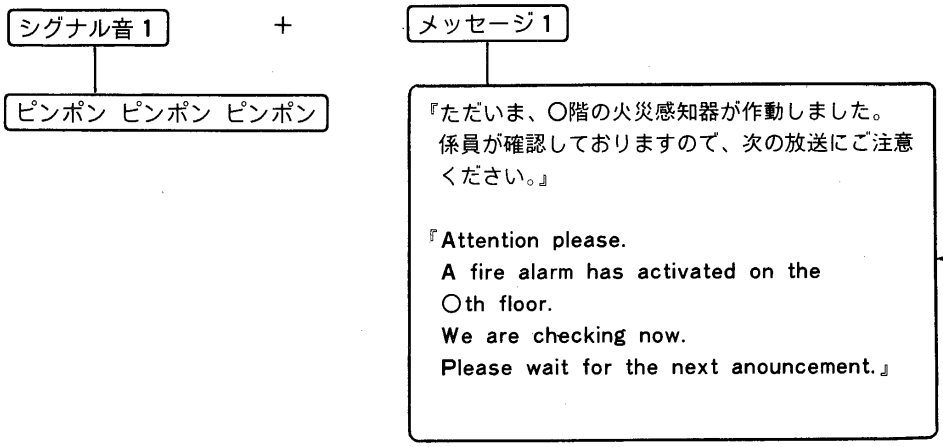

## 非常放送の流れ

■どの状態でもマイク放送が優先し、マイクによる避難誘導放送ができます。
■非火災時は非火災放送スイッチを押します。
どの放送状態でも非火災放送ができます。
（非火災放送しますと、第1タイマおよび第2タイマは解除されます。）
※この図は非常放送の流れを概略示したものです。
詳細については各モードでの操作のしかた（10ページ～15ページ）をご参照ください。

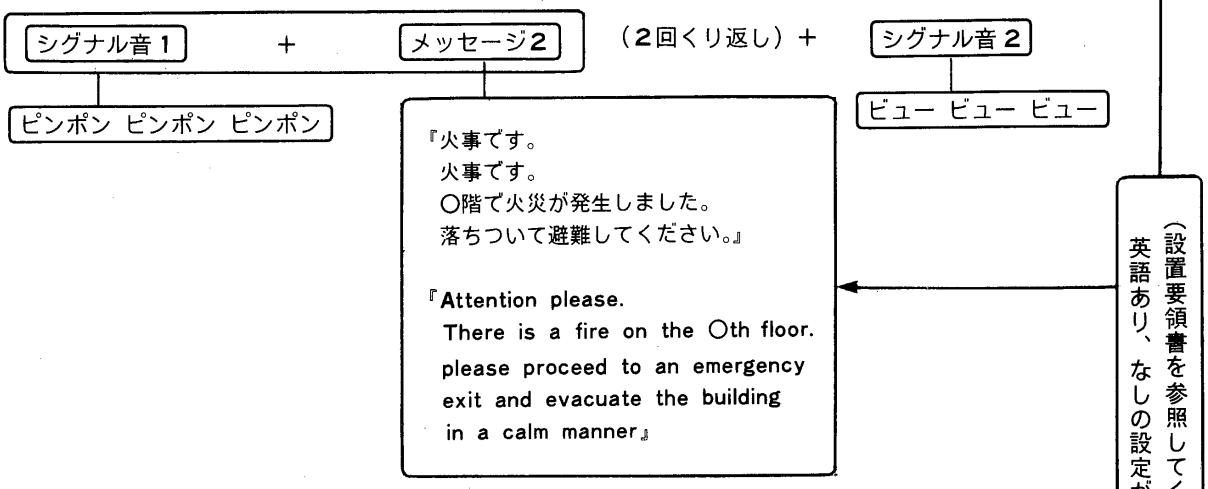
# 音声警報について

■非常放送時に的確な情報伝達と避難誘導をするための音声合成による放送です。
シグナル音とメッセージの組み合わせで構成され、次の３種類があります。

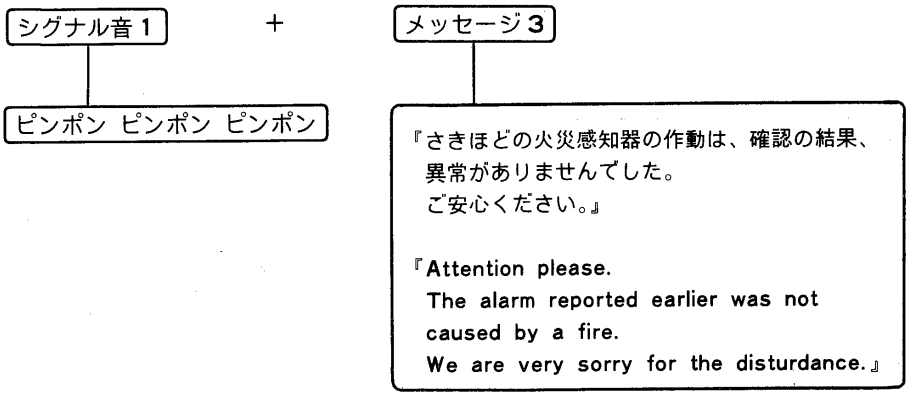
**●発報放送〔女声〕**……発報放送モード時２回くり返し放送されます。
（感知器起動、手動起動時は、連続くり返しに設定変更できます。）
設定方法は、書き込みのしかたを参照ください。




**●火災放送〔男声〕**……火災放送モード時、連続してくり返し放送されます。




**●非火災放送〔女声〕**……非火災放送モード時、２回くり返し放送されます。



# 各種設定について

## ■発報連動/発報連動停止の設定…〔感知器起動時の動作モードの設定〕

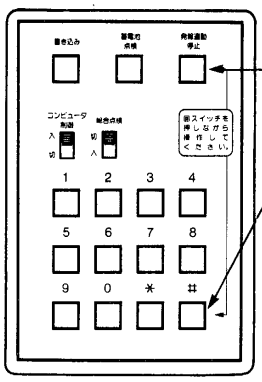
〔動作モード〕

**発報連動**：出火階、連動階に発報放送が放送されます。

**発報連動停止**：発報放送は放送されず、本機の火災音ブザーが鳴動します。

**発報連動一斉**：すべての階に発報放送が放送されます。

〔設定方法〕 マイク扉内のスイッチ操作で設定します。




（マイク扉内部）

＃スイッチを押しながら発報連動停止スイッチを押します。

- 押すたびに順次設定モードが変わります。
- 設定モードにより表示が次のとおり点灯します。

| モード | ⑧連動一斉表示灯 | ⑨連動停止表示灯 |
|---|---|---|
| 連　動 | 消　灯 | 消　灯 |
| 連動一斉 | 点　灯 | 消　灯 |
| 連動停止 | 消　灯 | 点　灯 |

## ■発報放送/火災放送の設定…〔非常電話または発信機起動時、手動起動時の動作モードの設定〕

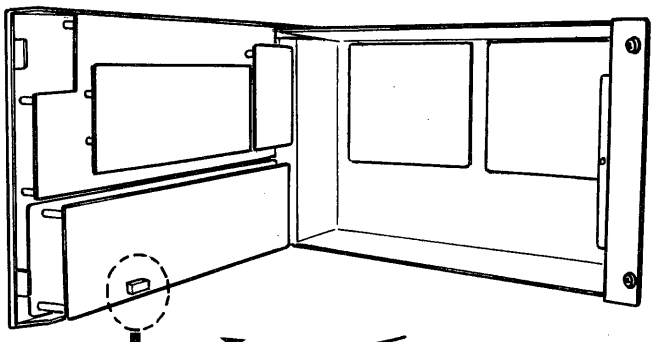
〔動作モード〕

**発報放送**：選択された階に発報放送が放送されます。

**火災放送**：選択された階に発報放送が放送されず、火災放送が放送されます。

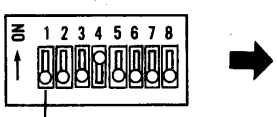
〔設定方法〕 次の手順で行なってください。

①ロッカー本体の非常業務操作パネル（APE-520RA）のパネルをあけ、②内部のディップスイッチで設定します。



非常業務操作パネル
（APE-520RA）

①パネルをあける。




| | |
|---|---|
| ON | 火災放送からスタート |
| OFF（出荷時設定状態） | 発報放送からスタート |

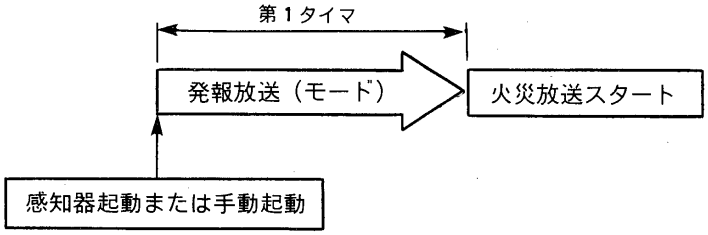
②このディップスイッチ1で設定する。

**ご注意**

- 電源を入れたままでディップスイッチを変更または設定したときは、マイク扉内のコンピュータ制御スイッチをいったん「切」にしたあと「入」にしてリセットをかけてください。リセットをかけないと設定されません。

## ■第１タイマの設定…〔感知器起動時、手動起動時から火災放送へ自動的に移行するタイマ（第１タイマ）の時間設定〕

〔動 作〕　２分～10分（１秒単位で設定可）……初期設定：２分

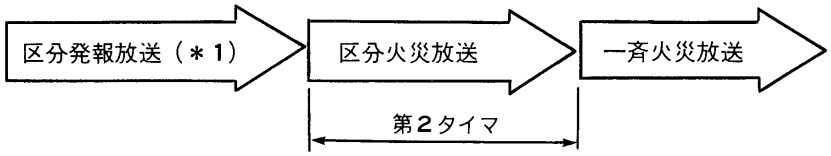



● 火災放送は第２タイマの設定により区分火災放送と一斉火災放送のどちらかとなります。
マイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。
書き込みのしかたを参照ください。

## ■第２タイマの設定…〔区分火災放送から一斉火災放送へ自動的に移行するタイマ（第２タイマ）の時間設定〕

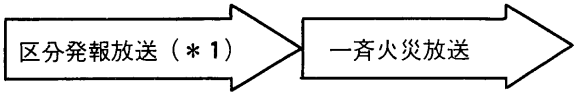
● 下記の３種類の設定ができます。
● 出荷時は第２タイマは２分に設定してあります。

### 〔区分火災放送２～10分の後一斉火災放送へ移行するモード〕：第２タイマ２～10分設定

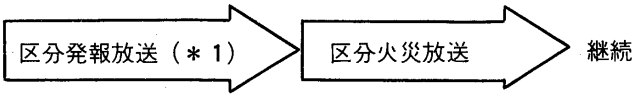



第２タイマは２～10分の間で任意に（１秒単位で）設定できます。

### 〔区分発報放送後即一斉火災放送へ移行するモード〕：第２タイマ０分設定




### 〔区分火災放送を継続し、一斉火災放送へ自動的には移行しないモード〕：第２タイマ OFF 設定




（＊１）起動方式設定により区分発報放送がない場合もあります。

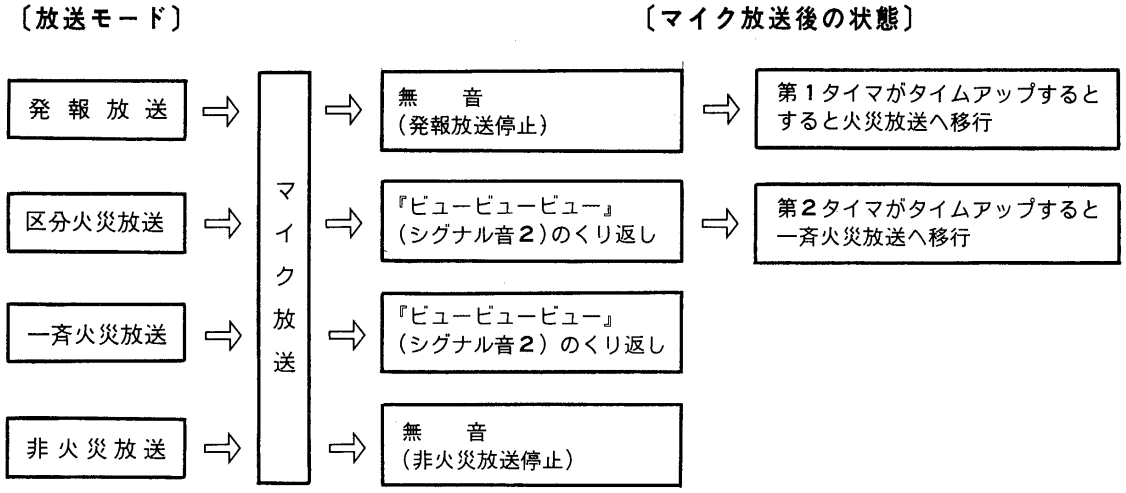
### 〔設定方法〕

マイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。
書き込みのしかたを参照ください。

# マイク放送および放送復旧操作について

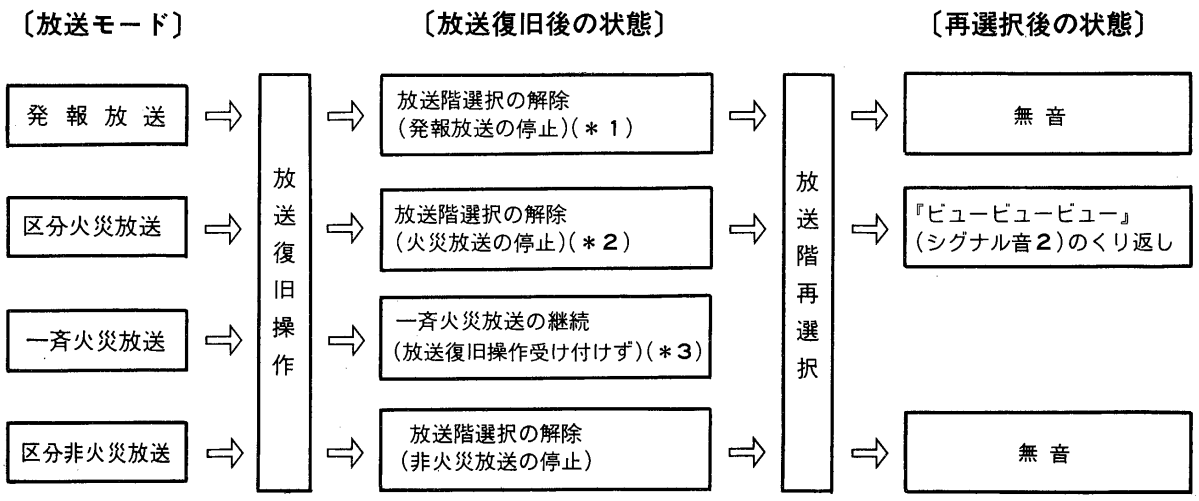
## ■マイク放送について

●マイク放送はどの状態においても、音声警報放送より優先します。
●各放送モードでマイク放送したときの動作は次のとおりです。




## ■放送復旧操作について

●各放送モードで放送復旧操作（放送復旧スイッチ⑳の操作）したときの動作は次のとおりです。




（＊1）第1タイマは、継続動作します。
（＊2）第2タイマは、継続動作します。
（＊3）放送階の解除はできません。一斉火災放送の解除は、非常復旧スイッチを操作して行ないます。

# 非常放送のしかた ①

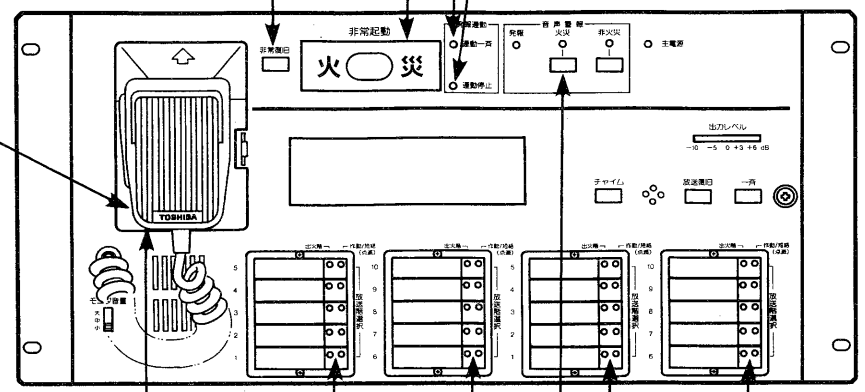
**感知器起動**（発報連動の場合）**発報放送**あり

火災発生

自火報設備から
階別信号入力

**連動一斉表示灯** 消灯

**発報連動停止表示灯** 消灯

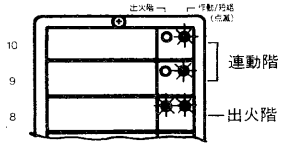



**1 発報放送されます。**

自動的に出火階、連動階に放送されます。

- 火災灯が点滅。

- 出火階表示灯、階別作動表示灯が点灯。




- 発報放送表示灯が点灯。

発報

- 火災放送移行の第１タイマスタート。
（タイマ動作中は火災灯点滅。）

**発報放送**が２回以上くり返し放送されます。

**発報放送**

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『ただいま、○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

**その後、ブザー音が鳴ります。**

ブザー音 ピー……

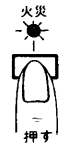
- 発報放送表示灯が点滅。

**2 火災を確認します。**

**注意**

- 次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
  - 発信機、非常電話の起動
  - 第２感知器の起動
  - 第１タイマのタイムアップ

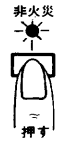
**3 火災スイッチを押します。**




- 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

火災時

**3 非火災スイッチを押します。**




- 非火災放送表示灯が点灯。

非火災時

**火災放送**がくり返し放送されます。

**火災放送**

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

**非火災放送**が２回放送されます。

**非火災放送**

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

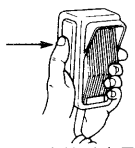
**その後は無音となります。**

- 非火災放送表示灯が点滅。

**マイク放送終了後**
**「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。**

- 火災放送表示灯が点滅。

**4 マイクで放送します。**

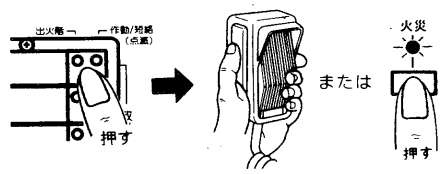



トークスイッチを押しながらマイク放送します。

- 火災放送表示灯が点滅。

**5 他の階に放送します。**

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。




**第２タイマのタイムアップ**

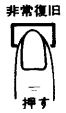
**第２タイマの設定『０分』の場合**

**第２タイマの設定『OFF』の場合**

**鎮火**

**8 自火報設備を復旧させます。**

**9 非常復旧スイッチを押します。**




**6 すべての階に火災放送がくり返し放送されます。**

**火災放送**

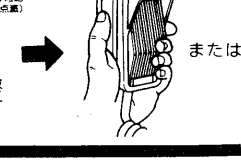
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

- すべての階別作動表示灯が点灯。

**ご注意**

- 放送復旧することはできません。

**7 マイク放送または火災放送します。**




- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

ALF-1504R (10 / 21)

# 非常放送のしかた ②

**感知器起動**（発報連動停止の場合）**発報放送**なし

火災発生

自火報設備から
階別信号入力

**発報連動停止表示灯**点灯

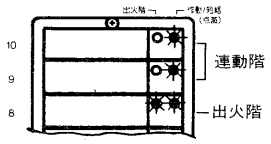
**1** ブザー音が鳴ります。

ブザー音　ピー……

**ご注意** 放送はされません。

- 火災灯が点滅。

- 出火階表示灯、階別作動表示灯が点灯。




- 発報放送表示灯が点滅。

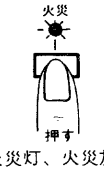
- 火災放送移行の第１タイマスタート。
（タイマ動作中は火災灯点滅。）

**2** 火災を確認します。

**注意**
- 次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
  - 発信機、非常電話の起動
  - 第２感知器の起動
  - 第１タイマのタイムアップ

火災時

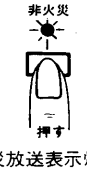
**3** 火災スイッチを押します。




- 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

非火災時

**3** 非火災スイッチを押します。




- 非火災放送表示灯が点灯。

**4** マイクで放送します。

トークスイッチを押しながらマイク放送します。

- 火災放送表示灯が点滅。

**火災放送**がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

**非火災放送**が２回放送されます。

非火災放送

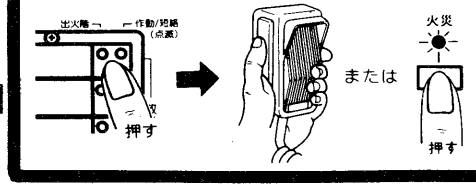
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

**その後は無音となります。**

- 非火災放送表示灯が点滅。

**5** 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。




マイク放送終了後
「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

- 火災放送表示灯が点滅。

第２タイマのタイムアップ

**6** すべての階に**火災放送**がくり返し放送されます。

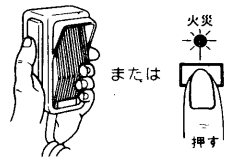
火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

- すべての階別作動表示灯が点灯。

**ご注意**
- 放送復旧することはできません。

**7** マイク放送または**火災放送**します。




- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

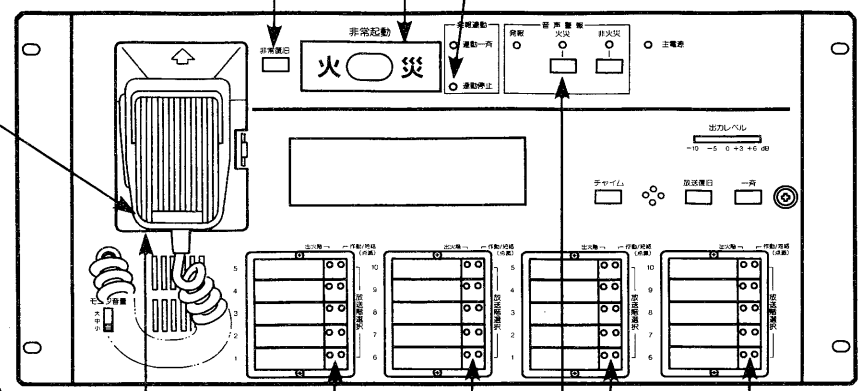
鎮火

**8** 自火報設備を復旧させます。

**9** 非常復旧スイッチを押します。

第２タイマの設定
『０分』の場合

第２タイマの設定
『OFF』の場合





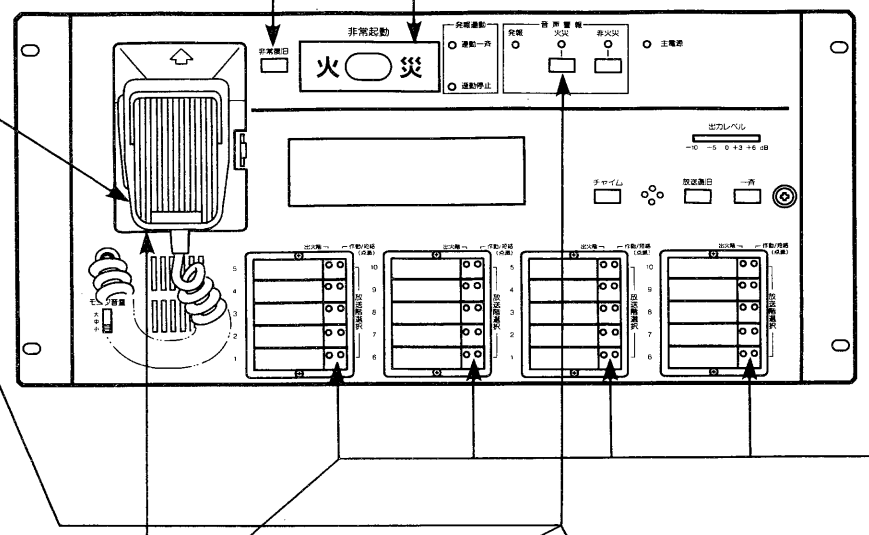

ALF-1504R (11 / 21)

# 非常放送のしかた ③

発信機・非常電話起動（発報火災切換スイッチが発報側） 発報放送あり

火災発生

自火報設備から
階別信号と
火災確認信号入力

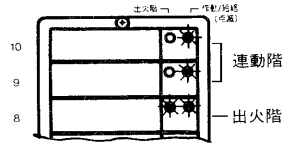



**1 発報放送 されます。**

自動的に出火階、連動階に放送されます。

- 火災灯が点灯。

- 出火階表示灯、階別作動表示灯が点灯。




- 発報放送表示灯が点灯。




**発報放送 が２回以上くり返し放送されます。**

発報放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『ただいま、○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

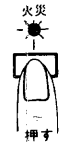
**2 火災を確認します。**

注意

- 次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
- 発報放送の終了。
- 感知器の起動。

火災時

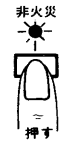
**3 火災スイッチを押します。**




- 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

非火災時

**3 非火災スイッチを押します。**




- 非火災放送表示灯が点灯。

**火災放送 がくり返し放送されます。**

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

**非火災放送 が２回放送されます。**

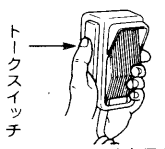
非火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

**その後は無音となります。**

- 非火災放送表示灯が点滅。

**4 マイクで放送します。**

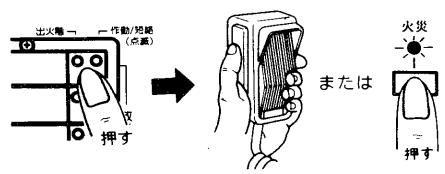



トークスイッチを押しながらマイク放送します。

- 火災放送表示灯が点滅。

**5 他の階に放送します。**

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。




**マイク放送終了後**
**「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。**

- 火災放送表示灯が点滅。

**第２タイマのタイムアップ**

**第２タイマの設定『０分』の場合**

**第２タイマの設定『OFF』の場合**

**鎮火**

**8 自火報設備を復旧させます。**

**9 非常復旧スイッチを押します。**

# 非常放送のしかた ④

発信機・非常電話起動　（発報火災切換スイッチが 火災 側）の場合

発報放送 なし

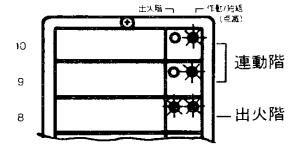
火災発生

階別信号入力
火災確認信号入力

**1 火災放送 されます。**

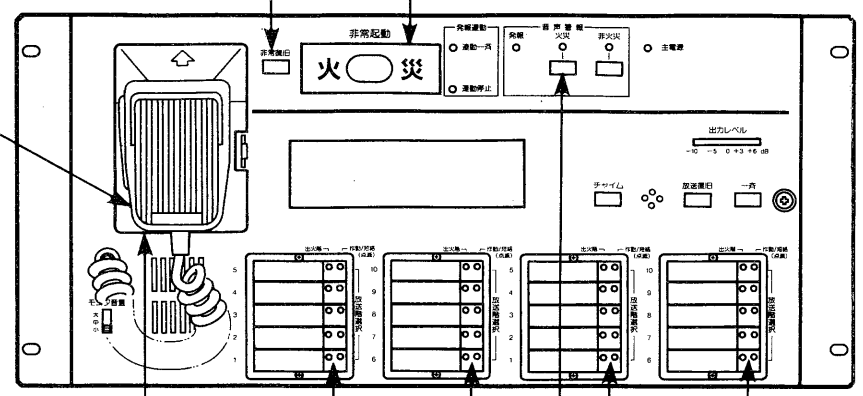
自動的に出火階、連動階に放送されます。
●火災灯が点灯。

●出火階表示灯、階別作動表示灯が点灯。




●火災放送表示灯が点灯。

**ご注意**
●第２タイマの設定〔０分〕の場合は、すべての階に放送されます。

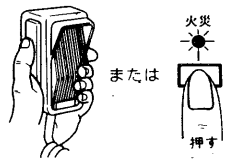



**7 非常復旧スイッチを押します。**

**6 自火報設備を復旧させます。**

鎮火

**5 マイク放送または 火災放送 します。**




●すべての階に放送されます。
●マイク放送後は、『ピュー ピュー ピュー』のくり返し放送となります。

**4 すべての階に 火災放送 がくり返し放送されます。**

火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』

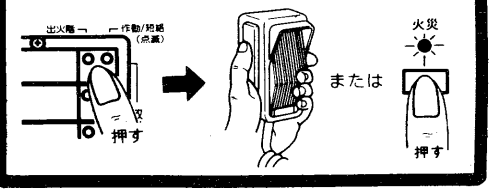
●すべての階別作動表示灯が点灯。

**ご注意**
●放送復旧することはできません。

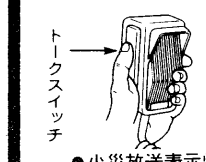
第２タイマのタイムアップ

**3 他の階に放送します。**

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。




**2 マイクで放送します。**




●火災放送表示灯が点滅。

第２タイマの設定
『０分』の場合

第２タイマの設定
『OFF』の場合

マイク放送終了後
「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。
●火災放送表示灯が点滅。

**非火災放送** が２回放送されます。

非火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』
その後は無音となります。

●非火災放送表示灯が点滅。

**火災放送** がくり返し放送されます。

火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』

**3 非火災スイッチを押します。**

●非火災放送表示灯が点灯。

非火災時

# 非常放送のしかた ⑤

**手動起動**　（発報火災切換スイッチが**発報**側）の場合　**発報放送**あり

火災発生

**1** 非常起動スイッチを押します。

非常起動　火災　押す

● 火災灯が点滅。

音声ガイドがモニタスピーカから鳴ります。

音声ガイド　放送階を選択せよ。

**2** 放送階選択スイッチ（一斉スイッチ）を押します。

作動表示灯点灯　押す

● 火災灯点滅。
● 発報放送表示灯が点灯

発報

● 火災放送移行の第１タイマスタート（タイマ動作中は火災灯点滅）

**発報放送**が２回以上くり返し放送されます。

**発報放送**

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『ただいま、火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

**その後、無音となります。**

● 発報放送表示灯が点滅。

**3** 火災を確認します。

**注意**

● 次の場合自動的に火災放送されます。
　● 感知器、発信機、非常電話の起動。
　● 第１タイマのタイムアップ。
● 放送復旧スイッチを押すことにより発報放送の停止（第１タイマは継続）ができます。

火災時

**4** 火災スイッチを押します。

火災　押す

● 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

非火災時

**3** 非火災スイッチを押します。

非火災　押す

● 非火災放送表示灯が点灯。

**火災放送**がくり返し放送されます。

**火災放送**

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

**非火災放送**が２回放送されます。

**非火災放送**

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

**その後は無音となります。**

● 非火災放送表示灯が点滅。

**5** マイクで放送します。

トークスイッチ　トークスイッチを押しながらマイク放送します。

● 火災放送表示灯が点滅。

**6** 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。

作動/短絡（点滅）　押す　または　火災　押す

**マイク放送終了後**「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

● 火災放送表示灯が点滅。

**第２タイマの設定『０分』の場合**

**第２タイマの設定『OFF』の場合**

**第２タイマのタイムアップ**

**7** すべての階に**火災放送**がくり返し放送されます。

**火災放送**

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

● すべての階別作動表示灯が点灯。

**ご注意**

● 放送復旧することはできません。

**8** マイク放送または**火災放送**します。

火災　または　押す

● すべての階に放送されます。
● マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

**鎮火**

**9** 自火報設備を復旧させます。

**10** 非常復旧スイッチを押します。

非常復旧　押す



ALF-1504R (14 / 21)

# 非常放送のしかた ⑥

手動起動 （発報火災切換スイッチが 火災 側） 発報放送 なし

火災発生

**1 非常起動スイッチを押します。**

非常起動

火災

押す

● 火災灯が点灯。

音声ガイドがモニタスピーカから鳴ります。

音声ガイド　放送階を選択せよ。

**2 放送階選択スイッチ（一斉スイッチ）を押します。**

作動表示灯 点灯

押す

● 火災放送表示灯が点灯。

火災

**ご注意**

● 第2タイマの設定〔0分〕の場合は、すべての階に放送されます。

**第2タイマの設定『0分』の場合**

**3 マイクで放送します。**

トークスイッチ

トークスイッチを押しながらマイク放送します。

● 火災放送表示灯が点滅。

**4 他の階に放送します。**

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。

または

押す

**第2タイマの設定『OFF』の場合**

**マイク放送終了後**

「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

● 火災放送表示灯が点滅。

**非火災放送** が2回放送されます。

非火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

**その後は無音となります。**

● 非火災放送表示灯が点滅。

**火災放送** がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……2回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

**3 非火災スイッチを押します。**

非火災

押す

● 非火災放送表示灯が点灯。

**5 すべての階に 火災放送 がくり返し放送されます。**

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……2回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

● すべての階別作動表示灯が点灯。

**ご注意**

● 放送復旧することはできません。

**第2タイマのタイムアップ**

**6 マイク放送または 火災放送 します。**

または

火災

押す

● すべての階に放送されます。
● マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

**鎮火**

**7 自火報設備を復旧させます。**

**8 非常復旧スイッチを押します。**

非常復旧

押す

# 業務放送のしかた

## 〔1〕本体マイク放送

### 1 放送したい場所を選択します

- 全回線一斉に放送したい場合は一斉放送スイッチ⑲を押します。
- 回線別に放送したい場合は放送階選択スイッチ㉓を押します。
- ブロック放送したい場合は、非常・業務ブロックスイッチまたは業務ブロックスイッチに設定した放送階選択スイッチ㉓を押します。

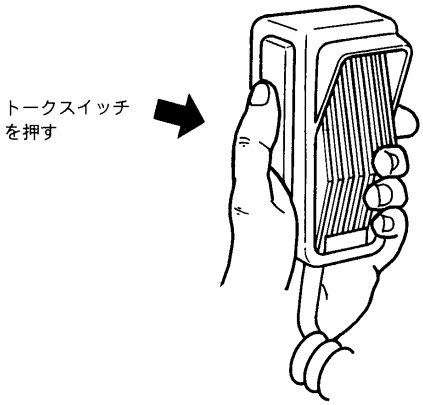
➡ 選択された回線またはブロック指定された回線の作動表示㉒が点灯し、
液晶パネル⑯に放送中表示がされます。
電力増幅器の電源が入ります。

**●非常・業務ブロックスイッチまたは業務ブロックスイッチで放送する場合**

- ブロック放送をするとき……ブロック選択スイッチに書き込んだ放送階選択スイッチ㉓を押します。
- ブロック放送を終了したとき……選択したブロック選択スイッチ（作動表示灯㉒の点灯しているスイッチ)を再度押すか、放送復旧スイッチ⑳を押します。
- ２以上のブロックに放送するとき……放送したいブロックの放送階選択スイッチを順に押します。
- ブロックの中で放送したくない場所があるとき……放送したくない、不要な場所の放送階選択スイッチ㉓を押します。（作動表示灯㉒が消え、選択が解除されます。）
- 選択したブロックに放送したい場所を追加するとき……放送したい階別選択スイッチ㉓を押します。
（作動表示灯㉒が点灯し、追加されます。）

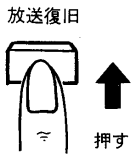
### 2 非常・業務兼用マイクロホン①を使って放送します

- 放送前の予告としてチャイム音(４音)を放送したい場合は、チャイムスイッチ⑱を押します。
- マイクロホンをはずし、トークスイッチを押しながら放送します。




### 3 放送が終了したら放送復旧スイッチ⑤を押します

**ご注意** 放送階選択スイッチ㉓を再度押して、放送階を解除することもできます。



## 〔2〕非常・業務兼用リモコンからのマイク放送

●非常・業務兼用リモコンのマイクで本体と同様にマイク放送ができます。
操作方法も本体と同じです。

## 〔3〕業務リモコンからのグループ放送

●業務リモコンを接続して、業務リモコンから本体とは別のグループを設定し、そのグループに放送できます。
（グループ設定のしかたは〝書き込みのしかた〟を参照してください。また業務リモコンの使いかたは業務リモコンに付属の取扱説明書をご参照ください。）

## 〔4〕音声ファイル放送

●音声ファイル等を接続し、起動させると緊急コメント、一般コメント等を放送できます。
放送先は任意に設定できます。
（放送先の設定のしかたは〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

## 〔5〕時報チャイム放送

●エレクトロチャイム等を接続し、タイマーで起動させると時報用チャイムを放送できます。
放送先は任意に設定できます。
（放送先の設定のしかたは〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

## 〔6〕ページング放送

●電話からの音声をページング入力回路に接続し起動させると電話ページング放送ができます。
（放送先の設定のしかたは、〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

## 〔7〕BGM放送

●BGM演奏装置を予備入力回路に接続し起動させるとBGM放送ができます。
放送先は任意に設定できます。
（放送先の設定のしかたは〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

## 〔8〕多元放送（入力マトリクスパネルを使用した放送）

●入力マトリクスパネルを使用して、多元で放送することができます。
（入力マトリクスパネルの取扱説明書をご参照ください。）

# 業務放送の優先順位

## （1）単元放送時(入力マトリクスパネルを使用しない場合)

- 出荷時の初期設定は、次のように設定されています。
  全ての放送が、第1優先で後取り優先となります。
- プログラムの書き込みにより、次の例のように最大4段階に優先順位をつけることができます。
  同一優先内は、後取りまたはミキシングどちらかに設定できます。
  (設定のしかたは、〝書き込みのしかた〟をご参照ください。)

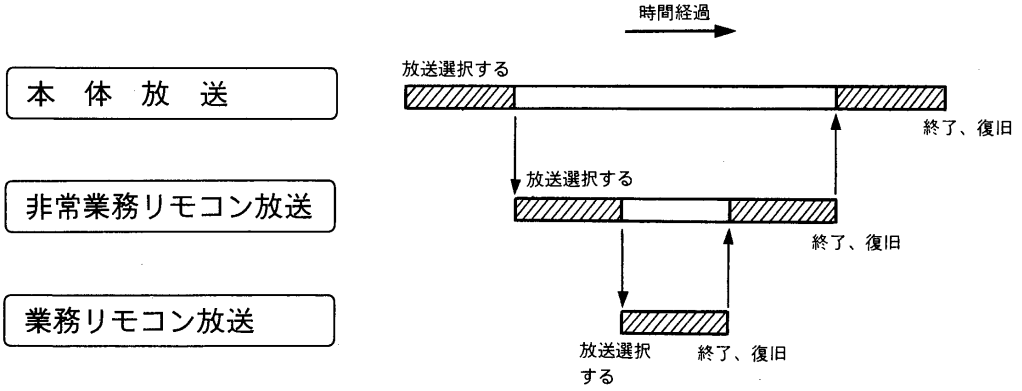
(優先順位の例)

| 放送内容(入力) | 第1優先 | 第2優先 | 第3優先 | 第4優先 |
|---|---|---|---|---|
| 音声ファイル | ○ | | | |
| 時報チャイム | | ○ | | |
| 本体放送 | | | ○ | |
| 非常業務リモコン | | | ○ | |
| 業務リモコン(多線式) | | | ○ | |
| ページング | | | ○ | |
| 予　　備 | | | | ○ |

## （2）多元放送時(入力マトリクスパネルを使用する場合)

- 出荷時の初期設定は、後取り優先となっています。
- プログラムの書き込みにより、入力優先順(入力マトリクスの入力No.の小さい方が優先)に設定できます。
  (設定のしかたは、〝書き込みのしかた〟をご参照ください。)

(後取り優先の動作例)



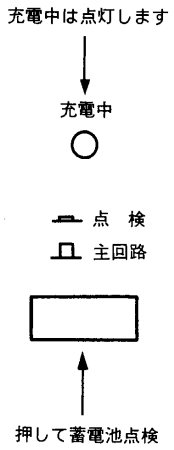
# 保守点検のしかた（保守点検者の方へ）

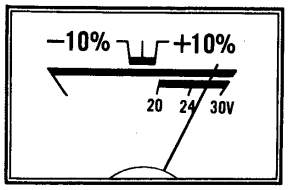
非常用放送設備の保守点検は有資格者(消防設備士、第２種消防設備点検資格者)でなければ行なえませんのでご注意ください。

## 非常用蓄電池のチェックのしかた

●非常電源パネル（APDE-200）の蓄電池点検スイッチ㉝でチェックします。点検スイッチ㉝を押したとき、非常電源電圧計㉜の指針が24～30Ｖ線の間に振れれば十分です。
この範囲内に振れないときはすぐに新しい蓄電池との交換が必要です。なお、蓄電池点検は１回５秒以内とし、５秒以上点検スイッチを押さないでください。

●非常用蓄電池の標準寿命は約４年ですが、非常時に機器を正しく動作させるためにも上記の方法でチェックし、早めの交換をしてください。



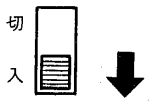



主回路／非常電源電圧

## 総合点検について

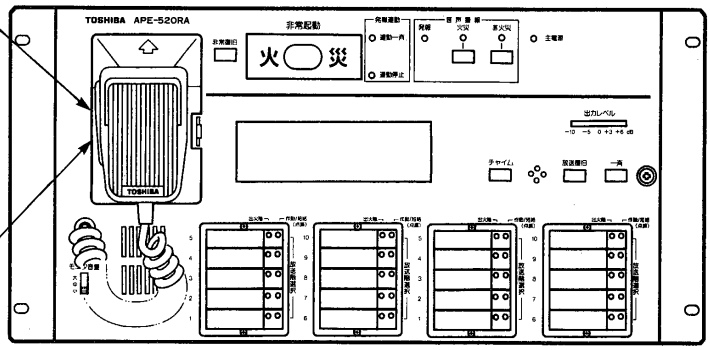
●スピーカから音を出さずに本機の総合点検ができます。

●マイク扉内の総合点検スイッチ㉗を〝入〟にします。




●非常放送、業務放送を行い動作を各表示灯モニタスピーカ、出力レベル計で確認します。

●動作確認を終了したら総合点検スイッチ㉗を〝切〟にもどします。



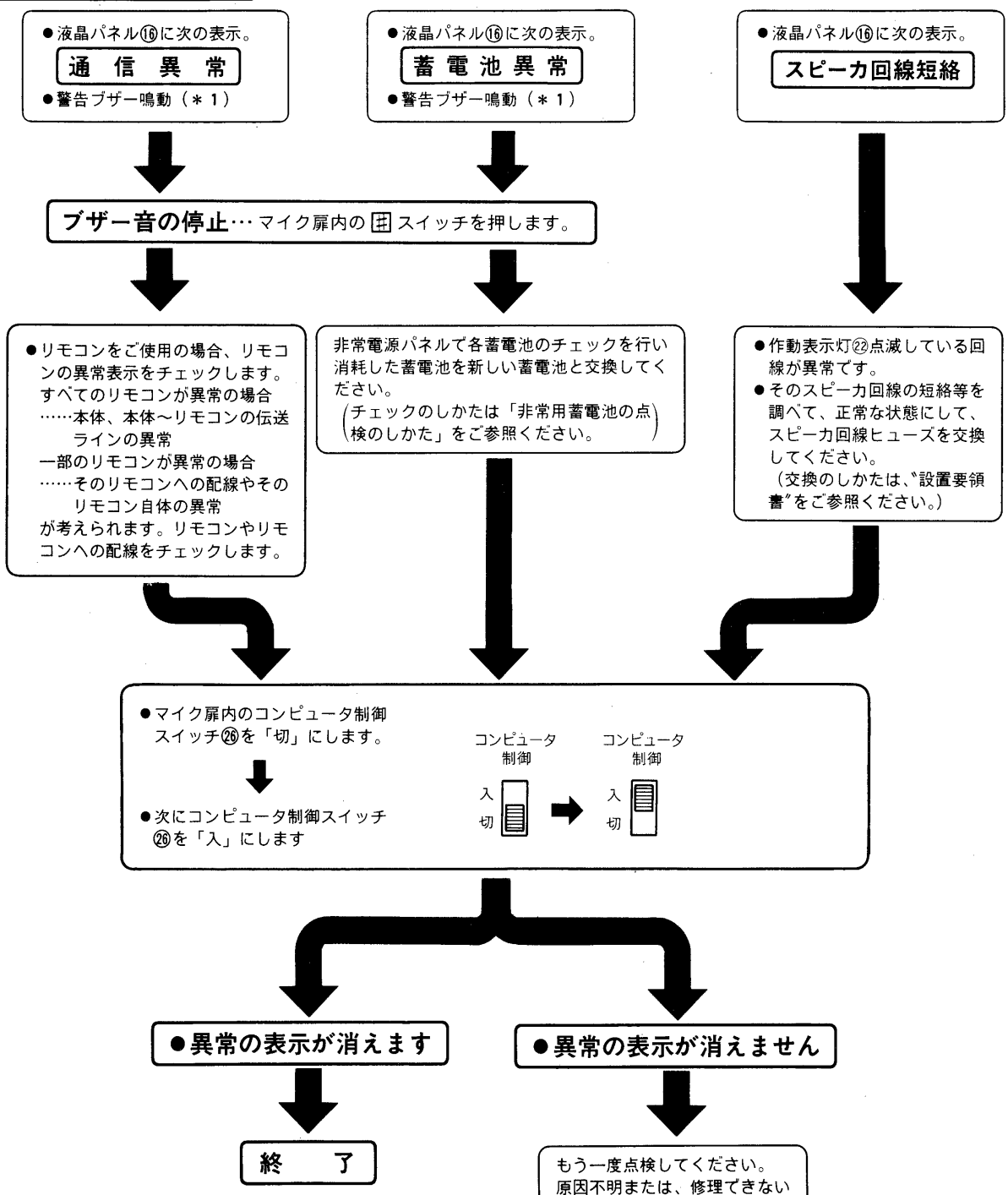
## 自動点検について

- 本機では、常に非常業務リモコンおよびマルチリモートコントローラとの通信の点検が自動的に行われます。
- なお、24時間ごとに蓄電池の電圧を自動点検しています。
- リモコンとの通信、蓄電池に何らかの異常が発生しますと液晶パネル⑯に、異常表示され、警告ブザーが鳴ります。

**ご注意**

- 蓄電池の自動点検する時刻は、次の動作によりその都度リセットされ、その動作時の時刻で毎日点検することになります。
  - 電源投入時
  - コンピュータ制御スイッチ㉖切→入時
  - 非常放送復旧時

## 異常発生時の処置のしかた




＊1 警告ブザーの鳴り時間は、2分間または、連続のどちらかです。
（設定のしかたは、〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

＊2 液晶パネル⑯で異常内容を確認することもできます。
- 通信異常のリモコンの番号
- 短絡したスピーカ回線の番号
- 異常な蓄電池の番号

（確認のしかたは、〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

# 修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源スイッチを「切」にし、お買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは機器の形名およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。ご相談される前にいま一度下表の項目を点検してください。

| 症状 | | 点検項目 | 処置 |
|---|---|---|---|
| 電源が入らない<br>電源表示灯が点灯しない | すべてのパネルの電源が入らない<br>充電中表示灯㉞が消えている | 主電源(AC 100V)供給元のブレーカが作動していませんか | ブレーカを「入」にする |
| | 電力増幅器の電源表示灯㊱が消えている | 電源ヒューズ㉞が溶断していませんか | 規定の▽マークの新しいヒューズと交換します |
| 音が全く出ない | 電力増幅器の内部ヒューズ断表示㉞が点灯している | 電力増幅器内部にある保護ヒューズが溶断しています。このヒューズが溶断するのはスピーカラインが短絡、地絡したりすると溶断します。このようなことがありませんでしたか？ | スピーカラインの短絡、地絡箇所をなおし、電力増幅器内部のヒューズを新しいヒューズと交換します　(注) |
| | | スピーカのアッテネータが〝OFF〟の位置になっていませんか | スピーカアッテネータを1.2.3のいずれかの適正な位置にセットします |
| | | 液晶パネルに異常表示されていませんか | 自動点検について の項に従ってチェックしてください |
| 音が時々途切れる | 特定の入力機器(マイクロホンなど)の放送が時々途切れる | その入力機器の接続コードが断線しかかっていませんか | 接続コードの交換、手直しをします |
| | すべての放送が時々途切れる | 途切れたとき放送出力レベル計⑰が全点灯（赤色のところまで全部点灯）しませんか | 発振しています。<br>発振の原因を取り除きます<br>(注) |

（注）これらの原因調査や交換はお買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご依頼ください。

**東芝ライテック株式会社** システム事業部　〒140　東京都品川区南品川2丁目2番13号(南品川JNビル) TEL (03) 5463−8779



**お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。**

(11674)A
ALF-1504R (21 / 21)